医療法人社団 敬仁会
桔梗ヶ原病院 － 共に歩む －

認知症疾患医療センター

センター通信

今回のセンター通信は『難聴』特集です。
2024年にランセット委員会が発表したデータによりますと、認知症の45%は遅らせたり軽減させたりできる可能性があるそうです。その中で難聴の影響は7%で、最大の認知症発症リスクであると示されました。
そこで今回は耳鼻科の先生に難聴について教えて頂きました。

【加齢性難聴について】

耳鼻科医　小林　潔子

【定義と病態】

かつて老人性難聴と言われていましたが、現在では一般的な老化に伴う現象であることから加齢性難聴と言われるようになりました。加齢により聴覚伝導路のすべての機能が低下しますが、中でも内耳（中耳の奥にあり、外から入ってくる音を受け入れ、生体の電気現象へと情報変換を行う部分）の機能が低下し、徐々に聴力が低下していきます（図１）。聴力は左右対称的で20歳代より次第に悪化し始め、５０歳代で高音域から中低音域の聴力低下が顕著になってきます（高音漸傾型）。内耳性難聴であるため音は聞こえるが何を言っているのかわからない（言葉の聞き取りが悪い）ことが特徴です。難聴の程度は個人差があり、女性より男性のほうに強く出る傾向があります。遺伝的要因と環境的要因が関係するといわれていますが、この難聴の遺伝子構造はほぼ分かっており検索できるようになっています。

異なる世代間の発症率を比較すると、より新しい世代の方が難聴の発症が少なくなっています。要因として、小児期の感染症の減少、予防接種の普及、社会的衛生環境、栄養状態の改善などが考えられ、これらにより難聴になる危険因子を減らしているためと考えられています。

【症状】

特別大きな耳の病気をしたことがなく、５０歳代くらいから聞き返し、聞き漏らし、聞き違いが多くなり、コミュニケーション障害が生じてきます。時に耳鳴りを伴いますが、めまいはありません。正常な人が三分の一の聞こえを失うと、日常生活で不便を感じるようになり、半分を失うと、何か対策を講じないと生活がかなり困難になり、人の助けが必要となります。騒音に暴露されることは難聴を増悪させます。

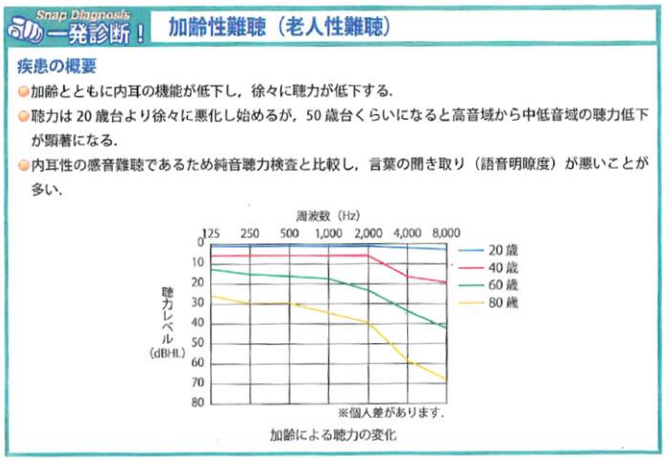

図１　加齢性難聴

【鑑別すべき難聴】

４０歳未満で純音聴力検査結果に異常が認められる場合、若年発症型両側性感音難聴があり、これは遺伝子検索で区別できます。もう一つ加齢性難聴の別の型で、“隠れ難聴”があります。これは普通の検査では異常がなく、特に雑音下での会話の聞き取りにくさを特徴とします。騒音と加齢が主病因で遺伝子検索により区別できます。加齢性難聴の人にも時に突発性難聴が起きることがあり、突然片方の耳が聞こえにくくなったら、本疾患を疑う必要があります。

【認知症との関係】

2020年の認知症の国際委員会の提言の中で、難聴は認知症になるリスク要因の筆頭に挙げられています。補聴器の使用は認知機能の衰えを防ぎ、使用していない難聴者に比べ、有意に発症を抑えていました。

【対策】

難聴のある人に話かけるには、まずゆっくり、はっきり話しかけるとわかりやすくなります。次に補聴器が有効で、近年の補聴器は９７%がデジタル補聴器です。２０１９年以降６０万台を超え年々利用率は増えています。色々なタイプがありますが中でも耳掛け型が６６%を占めて最も多いです。この中でRIC（Receiver In Canal）型が近年普及しています。これは音を受け入れるマイクロフォンと音の増巾、その他の処理をする本体を耳介の上に置き、音を聞くイヤフォン（レシーバ）を外耳道内に挿入するタイプです。これは本体を小さくでき、ハウリングが起きにくく構音出力が出やすい特徴があります。またオープンフィッティングというタイプの耳掛け方もあり、これは耳栓の隙間を多くして外耳道を閉鎖せず耳閉感、自声、咀嚼音を軽減させ、装用感が改善します。

耳穴式補聴器は目立たない利点がありますが、操作が細かく８０歳以上の方では難しいです。

その他テレビの音、電話での話などを自分だけ大きくして聞きたい場合は、手元に置く小さなスピーカや、首掛け式の小さいスピーカがあり、テレビでも盛んに宣伝されています。

人工内耳という、マイクロコンピュータを側頭骨に埋め込む方法もありますが、60代くらいまでの人は出来ますが、それ以降の人ではリハビリが難しく、あまり勧められません。

最後に、今研究されている最先端の方法として、聞こえの感覚細胞のiPS細胞を使った再生技術も研究されています。

当科でも毎月一度補聴器外来を設けていますので必要な方はご相談ください。

bloom様
ホームページより
https://www.bloomhearing.jp/

耳あな型

医療法人社団　敬仁会　桔梗ヶ原病院
〒399-6461 長野県塩尻市宗賀1295
電話番号　：　0263-54-0012
ＦＡＸ　：　0263-52-9315

桔梗ヶ原病院認知症疾患医療センター
直通電話番号　：　**0263-54-7880**
ＦＡＸ　：　0263-54-7881
Eメール　：　geriatric-medicine@keijin-kai.jp